

病害虫発生予察特殊報 第 1 号

キク小斑点病の発生について

佐賀県

1 . 病害虫名 : キク小斑点病

2 . 病原菌名 : *Stemphylium lycopersici* (Enjoji) W. Yamamoto
(syn. *Stemphylium floridanum* C.I.Hannon & G.F.Weber)

3 . 発生作物 : キク

4 . 発生の経過と概要

令和 3 年 10 月 ~ 令和 4 年 2 月に、県内でキク (品種 : 精の一世) を栽培している施設圃場 (本圃及び親株圃場) において、葉に褐色の輪紋や葉縁部が褐色に枯れる症状が確認された (図 1) 。当該株を採取し、農林水産省門司植物防疫所に同定依頼した結果、*Stemphylium lycopersici* によるキク小斑点病であることが判明した (図 2) 。

5 . 国内の発生状況

キク小斑点病の病徴としては、キクの花弁に、小さな円形斑を生じることが知られている。しかし、*Stemphylium lycopersici* によるキクの葉での病徴は、これまで日本国内では報告されていない。

なお、本病菌はトマト斑点病、トルコギキョウ褐斑病を引き起こし、これらの茎葉には病斑が形成されることが知られている。

6 . 病徴

葉に褐色の輪紋や、葉縁部が褐色に枯れる症状がみられる (図 1) 。なお、本病菌をキクの葉に噴霧接種した試験では、接種 5 日後に、暗褐色で不整形の病斑が再現されている (図 2) 。

7 . 防除対策

- 1) 現在、キク小斑点病に対する登録農薬はないため、耕種的防除を行う。
- 2) 罹病葉や罹病残渣は伝染源となる恐れがあるため、圃場外へ持ち出して適切に処分する。
- 3) 圃場内の排水対策を徹底する。また、施設内が多湿にならないよう、適宜換気を図る。

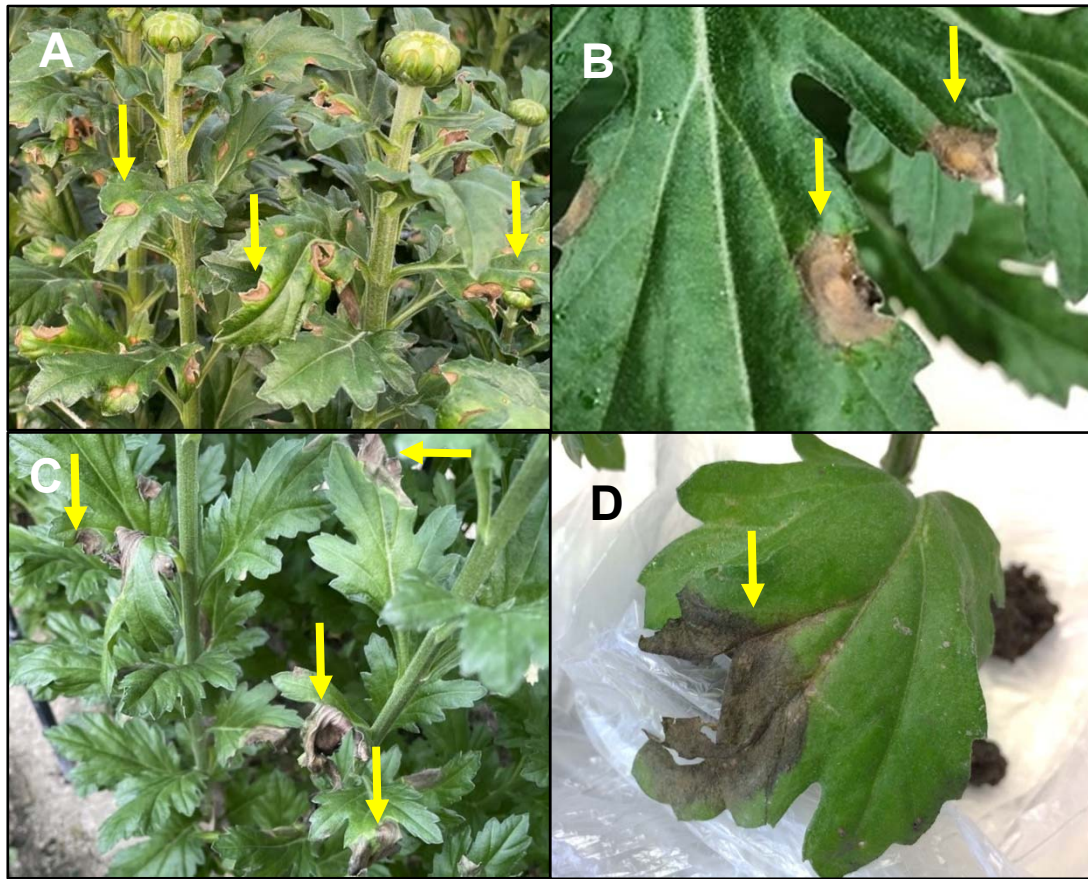


図1 キク栽培圃場で確認した褐色の輪紋症状(A,B)及び葉縁部が褐色に枯れる症状(C,D)

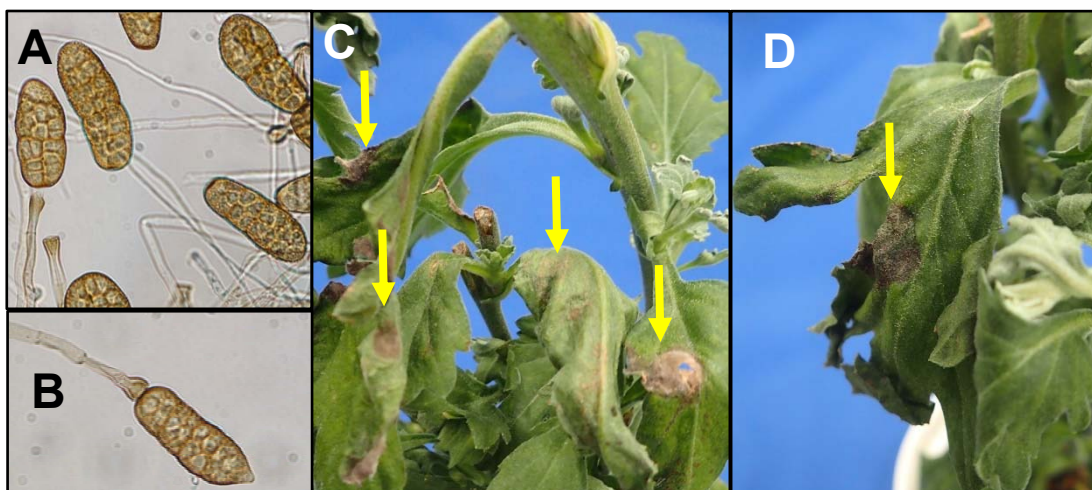


図2 佐賀県内の罹病株から分離した *Stemphylium lycopersici* の分生子 (A,B) 及び接種試験で再現されたキク小斑点病の病徴 (C,D)

注) 病斑部(C,D) から再分離試験を実施したところ、接種菌が検出された。

図2のA~Dは、農林水産省門司植物防疫所提供(無断転載を禁ずる)。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840-2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952)45-8153 FAX (0952)45-5085

Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

